

第 37 回卒業式 式辞

春の日差しが、日に日に暖かさを増していくこの良き日に、神奈川県立逗葉高等学校第 37 回卒業式を挙げてきましたことは、私共職員一同にとりまして大きな喜びです。卒業生の皆さん並びに保護者の皆さま方には、心からのお祝いを申し上げます。また、ご来賓の皆さま、地域の皆さまにおかれましては、卒業生の門出を祝うために、お忙しい中ご臨席をいただき、誠にありがとうございます。

卒業生の皆さん、皆さんは 3 年前の入学式の日から今日まで、本校で多くの友人や先生方と共に、様々な体験を重ね、それぞれに成長してきました。

はじめのある授業態度、体育祭でのリーダーシップや、文化祭での笑顔、部活動や委員会活動での堂々とした姿など、皆さんが高校生活に真剣に向き合い、頑張っていた様子を一年間見ることができて、本当に嬉しく思っています。

今、皆さんの代表に授与した卒業証書には、高等学校普通科の課程を卒業したことが証明されています。これは、高校での学習や様々な活動を通して、義務教育を超えた知識や教養と、主体性や協調性などの人格を身に付け、様々な課題を解決することができるようになったという保証書です。ですからこの先、皆さんは自信と誇りを持って自らの道を歩み、将来の夢をかなえていってほしいと思います。

とはいえ、進学するにせよ就職するにせよ、これから出ていく社会は、決して甘いものではありません。高校を卒業すると、皆さんが解決していかなければならない課題の難易度も、大きく上がります。定期テストのように、答えがある問題ばかりではありません。皆さんが身に付けた知識や技能は、そのままでは通用しないかもしれません。

これからは知識を、知恵として活用することが、ますます求められます。そして、知識を知識のままで終わらせず、知恵として使うためには、目的意識をもって主体的に課題解決に取り組むことが必要です。

そこで、巣立っていく皆さんに、心に留めておいてほしいことを 3 つお話します。

1 つ目は、好奇心を持ち続けてほしいということです。視野を広げ、様々なことに関心を持って自分の可能性を広げ、目標につなげてほしいのです。目標を持って、意欲的に課題に向き合うことで、脳は活性化し進化するようにできています。

2 つ目は、柔軟性です。努力しても課題がうまく解決できるとは限りません。いえ、むしろ失敗することも多いかもしれません。ですから、失敗にくじけず、挫折を乗り越える強さが必要です。それは、しなやかな強さです。タフで、楽観的な態度を維持する強さですから、忍耐力と言い換えることもできるでしょう。

3 つ目は、責任を受け止める覚悟です。課題に真剣に立ち向かうためには、決めてもらう側から決める側へ、守られる側から守る側へ、立ち位置を変えなければなりません。そこには責任が発生します。結果を他人のせいにはせず、自分のこととして受け止められる人間に

なってください。責任を果たせる人間は、周囲から信頼されます。そして、責任感を持って物事に取り組むことで、周囲の人の協力のありがたさや大切さを知り、感謝する気持ちも生まれます。

さて、いろいろとお話してきましたが、すべては心身の健康が土台となっています。また、今の皆さんがあるのは、保護者の方をはじめとする多くの方々のご支援があつてのことです。どうか、これからも健康に留意し、皆さんを支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを胸に刻み、新しい世界に向けての一步を踏み出してください。

皆さんには、無限の可能性があります。自らの可能性と未来を信じ、最後まであきらめずに、歩み続けてください。

皆さんの歩み行く世界が、可能性に満ちた素晴らしいものであることを祈念いたしまして、私の式辞といたします。

平成 29 年 3 月 1 日
神奈川県立逗葉高等学校 校長 大貫晶子